

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 6 月 20 日現在

機関番号：22401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26463238

研究課題名(和文) 新人看護教員の実践的思考と手段の支援に関する研究-教育実践の事例検討を用いて-

研究課題名(英文) Study on support of the Practical Thinking and Measures Nursing Novices Teachers

研究代表者

徳本 弘子 (Tokumoro, Hiroko)

埼玉県立大学・保健医療福祉学部・教授

研究者番号：00315699

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、まず新人看護教員が抱える指導困難場面を、事例検討という形で教育実践のリフレクションを行い、新人教員の教育場面的実践的思考と手段の実態を明らかにした。結果は学生の言動について教育目標、学習目標との関連で捉えられず、学生のとらえ方は特性のみ認識され、学生の思考、学習状況がとらえられていなかった。手段は、確認、指摘、指示、その場をながすであった。次に、2年間継続して教育事例を検討することで教育実践能力獲得状況を把握した。結果、新人教員は、困難と感じた事例の原因を知り、対処する方法が学び取れた。この結果から、新人教員が実践的思考や手段の獲得方法として教育事例が有用であることを示唆した。

研究成果の概要(英文)：To verify the efficacy of Case Studies of Educational Practis that strengthens the competency of novice-nursing Teachers to teach clinical practice.Two studies were conducted for verification. We examined opinions and thoughts on the practices of new nursing faculties by using cases as data, and subsequently, we conducted a two-year reflection on these cases. We performed an inductive analysis by using the case-study descriptions as outcome data for the new nursing Teacers in question. From the 15 cases, many accounts provided descriptions of situations only, with no descriptions of professors or students' studies. Novice faculties initially focused on students' insufficient abilities, problematic behavior, and inexperienced observations and responded emotionally. The qualitative inductive analysis results clarified that clinical education was conducted based on four perspectives and five approaches, thus identifying the conditions of the education and students.

研究分野：看護教育学

キーワード：新人看護教員 教育実践能力 臨地実習指導力 新人看護教員の教育能力 リフレクション 教育事例  
検討 状況判断

### 1. 研究開始当初の背景

看護系大学の新人看護教員（以後新人教員とする）の資質向上の中心的課題は、臨地実習指導能力の向上であるとしている。厚生労働省もまた 22 年に今後の看護教員のあり方に関する検討会報告書を提出し、看護教員に求められる教育実践能力を示し、教員の質を高める必要を示唆した。一方、多くの新人教員は臨地実習指導上の困難を抱えていた。看護系大学協議会では教育の質を担保するために新人教員の支援を FD として取り組む必要があることを報告した。しかし、この新人教員の臨地実習指導上の困難はアンケート、インタビュー等主観的データからの分析結果であり、困難と認識された実践場面の状況、その場の思考、用いた手段といった新人教員の実践能力の実態は明らかにされていなかった。新人看護師の職能成長については、ベナーの研究を基に多くの研究がなされ、それらを基に現場の新人看護師の看護実践能力育成の支援が制度的、組織的になされている。一方、看護の新人教員の教育実践能力の実態についての研究は見当たらず、教員の教育実践能力の支援について何をどのように支援するか明らかにされていない。したがって新人教員を支援するためにはまず新人教員の教育実践能力の実態を明らかにする必要があると示唆された。

国内の看護学領域において新人教員の教育実践場面の研究はほとんど見当たらない。一方、学校教育では新人教員の教育場面の視点や思考、手段に注目した研究、教師の教育力量を形成する過程の研究は多い。これらの研究では、新人教員と熟練教員の教育実践能力の相違を、同じ実践場面を共有して導き出している。結果は、新人教員の実践場面をとらえる視点は、熟練教員のそれとは質的な違いがあること、新人教員が教育場面を一人で見るだけでは、複雑な内側の関連性が捉えられず表面的な把握にしかならないことがわかっていく。これらの研究から新人教員が実践場面の状況が見えるようになるためには、熟練教員の支援が必要であるとしている。米国の新人教員と熟練教員の教育実践能力研究では NOVICE Teacher (以後新人教員とする) EXPERT Teacher (以後熟練教員とする) の実践場面の比較研究が多く見られる。これらの研究は、新人教員と熟練教員の授業の観察とインタビューを通じて、授業の中での手段を比較している。例えば、授業の中でのどのように生徒の事前の知識を使っているかを比較した研究では、新人教員は自ら構築した講義内容にそって教えているのに対し、熟練教員は講義の中で生徒の知識を使いながら知識の重要な意味を伝えていた。つまり新人教員は、教える内容を伝える行為はできるが、生徒との相互作用を創り出しながら生徒の持っている知識を活用しつつ今学んでいる知識の重要性や意味を伝えるといった対象の学びを創り出すことが出来ないこ

とがわかる。看護学の教員研究では新人教員の教授法に焦点をあてたアクションリサーチ研究がある。この研究は、新人教員の講義を観察し教授法をどのように使っているか映像を使ってリフレクションし、教授法の変化を見たものである。結果は、リフレクションを重ねることで教授法が教師中心から学生中心の方法に変化したとしている。この様に教員の職能育成にリフレクションを用いて職能の変化を見た研究が多く見られた。以上の新人教員の研究を踏まえると、新人教員は教育実践現場の複雑な状況が認識できない、複雑な状況で状況から切り離された専門知識と技術をその場に応じて、適用させることができない、生徒・学生の反応をとらえてうまく対応できないことが推測された。

また、新人教員の職能成長は、教育実践を客観的な場面をもとにリフレクションすることで得られることが予測できた。

### 2. 研究の目的

本研究は、新人教員が困難を体験した場面の事例を基に、事例検討という形で教育実践場面のリフレクションを行い、新人教員の教育場面の実践的な思考と手段の実態を明らかにする。また、事例検討を経ることで新人教員の実践的な思考と手段がどのように変化するかを明らかにする。

### 3. 研究の方法

新人教師の困難は、状況から切り離された知識を複雑な実践場面に応じて適用することができないためと考えられる。したがって新人教員が問題を感じた場面でどのような思考と手段を使っているのかを明らかにする

#### (1) 新人の教育実践能力の把握。

新人教員に困難と感じた状況を事例に起こし、場面を詳細にプロセスレコードにおこすことを依頼する。

次に事例を薄井の作成した「臨地実習指導モデル」を用い検討を行い、新人教員の無意識の判断や思考過程を表出してもらった。そこで得られた事例・事例検討の音声データをもとに新人教員の困難と感じた場面の思考を事例から教授に関する視点（教育目標、学習目標、患者特性）学習に関する視点（学生特性、個別計画、学習評価）について分析した。思考については印象「行為への印象、根拠や理由は記述されていない」、推論「理由や根拠を伴って印象や評価を記述してある。学生の考え、学生の行動、発言の意図を推測して記述している」にそって分析した。手段については、確認、指摘、指示といった指導内容を分類した。

#### (2) 新人看護教員が継続した教育事例検討を経て獲得される教育実践能力の実証的研究

事例検討は薄井の作成した「臨地実習指導モデル」を用いて行った。参加した経験教員から新人教員の提示された事例に沿っ

て、学生は患者をどのようにとらえているのか？学生は何をしたか？学生は何を考えて行ったか？学生はそれで何を感じていたか？といった学生の位置、患者はどのような人か、学生の支援をどのように感じているか？といった学生患者関係について質問がされた。また教員は患者をどのような患者と読み取ったか？患者の読み取り後どのような援助が必要と判断したか？といった患者看護師（看護教員）関係の質問がなされる。また、実習の目標、学生の指導目標といった実習における教員としての思考や判断、学生の反応の読み取りについて質問され、さらに、状況の詳細が明らかになった後、経験教員のこの状況の読み取りと判断、手段についてアドバイスがなされた。

事例検討時の新人看護教員の発言及びインタビューデータを収集し、新人の問題と感じた臨床指導場面の思考と手段を明らかにした。

数回の事例検討を経た新人看護教員の事例と事例検討の後「事例検討を重ねたことでどのように臨床指導場面の学生のとらえ方、手段が変化したか」をグループディスカッションし、それぞれの発言を、KJ法を用いて新人教員がまとめた。

#### 4. 研究成果

##### (1) 新人の教育実践能力の把握

事例は20事例収集できた。事例の形式が整っている15事例を分析対象とした。結果、新人教員の事例から、15事例中12例が学生の言動について教育目標、学習目標との関連が記載されていなかった。また、学習に関する視点では学生の特性のみの記述であった。その場の思考は、ほぼ印象であり、推論の記述は1例のみであった。手段については「確認」、「指摘」、「指示」の順であり、手段が思い浮かばず「その場をうけながす」例もあった。この結果から、新人教員は教育実践を教育の文脈でとらえることができず、学生の指導困難な場면을断片的に捉えていることが読み取れた。

##### (2) 新人看護教員が継続した教育事例検討を経て獲得される教育実践能力の実証的研究

事例検討2年目のインタビューは、継続して事例検討に参加した新人教員8名に行った。結果、事例作成は「自分の傾向を知りたい」<学生の指導がうまくできない。でもどうしていいのかが分からず消化不良感が強い><学生にどうかかわっていいかわからない。できていないのにできるぶって話したり学生に申し訳ない><私といったどういうつもりでこの学生に接したんだろうって思いかえして書く作業>といった【未消化な経験の整理】であった。事例検討場面では「状況を質問され、質問に答える繰り返して自分の思考や視点の不足に気

が付く」<実習の目標は？と聞かれて実習目標を意識してかかわっていないことに気づく><この学生の特性は？と聞かれ答えられず、成長途上である学生を捉えられていないことに気づく><教員として自分のできなさ加減が露呈してははずかしいけどそれ以上に今ここで何とかしたい><他者の事例は自分に足りない視点を気づかせてくれる。教育の考え方と方法を繰り返しシュミレーションできる><看護師として学生を見ていることに気づく><自分の不確かだったかわりを教育的かわりであることを認めてもらえた>といった【看護師と看護教員の実践的思考と方法の違に気づき、事例を基に教育の視点と手段のシュミレーションを繰り返す】場面であった。事例検討の成果として「学生の特徴を捉えられるようになった自分を自覚する」<学生を観察し学生の言葉や考えを引き出せるようになってきたことが喜びとなっている><学生のできないところを把握して働きかけ学生を動かす、変化させる方法は自分で体験しないと身につかない><看護を伝える言葉・看護を教育する方法を獲得した><実習目標を意識して学生の一つ一つの行動につなげるように導く><自分の学びとして教育の場面のリフレクションをする>【事例検討で獲得した看護教員としての視点や方法を実践場面で繰り返し使って教育の視点と手段を身につける】経験となった。

新人教員が抽出した事例検討を重ねることで変化した思考と手段

事例検討での新人教員が記述した学びについて得られたカードは393枚、第1段階の表札30枚、2段階12枚であった。まずはじめ看護できない学生の態度や言動を指摘した記述から【学生は看護の視点、看護での学び方を学んでいないので看護の視点で観察したり、考えたり、行動することができない。】と捉え、また学習者としてうまく学べていない点の指摘から【学習習慣がないため、知識が繋がらず、計画的に学ぶことができない。】といった学生のできない理由を推測していた。また、自己の実践の視点や立場を客観的に振り返ることで【集団行動がとれない】のは、「学生はグループ活動の初期の段階では表面的自己中心的な関係である。」など、学生のできないところばかりに注目していた。しかし、学生のできない原因を考えると【学生の行動の裏にある経験や体験に注目し、個別を理解する必要性が分かった。】のように、見え方が変われば、関り方も変わり、【学生は学ぶ必要性や学ぶ方法が分かると積極的に学ぶように変化することが分る】といった学生のできなかつたことができるようになる変化を引き出せるようになった。さらに、教育実践の捉え方の変化として【教員としての自分を振り返り、自分の不足を認識して困

難事例に対処する方法がわかってきた【看護の喜びを学生に伝えるために看護師モデルになり行為の意味を学生と一緒に考える重要性がわかった】学生の個性や認識に注目して指導するようになった【実習を意図的計画的に運営することを意識し、教材化できるようになった】指導の限界も意識して指導できるようになった【が分類された。この結果は新人教員が学生の思考を推測し、意図的計画的に臨地実習指導を行いつつ、関わって変化した学生の様子を読み取って、看護教員としての教育実践の意味を理解できるようになったことを示している。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 2件)

徳本弘子、後藤桂子、新井麻紀子、実習指導困難事例から見た新人教員の実習指導の特徴、埼玉県立大学紀要 17 巻、2015 23-30

Hiroko Tokumoto, Katsura Goto, Makiko Arai, Reflecting on Clinical Training Instruction: Improving New Instructors' Capabilities, ATINER'S Conference Paper Series, June 2017, NO:2016-2019 査読有

[学会発表](計 8件)

徳本弘子、新井麻紀子、新人看護師は事例検討の中でいかに経験を実践的な思考と手段に変換したか、第 36 回日本看護科学学会、2016 12 東京ホール(東京)

Hiroko Tokumoto, Katsura Goto, Makiko Arai, Reflecting on Clinical Training Instruction: Improving New Instructors' Capabilities, 14th Annual International Conference on Politics, 2-4 May 2016, Athens, Greece

大原恵美、安部安恵、細田奈む、岩下美恵子、成塚三恵、埜口笑美子、道屋純子、徳本弘子、新人看護教員の実習指導事例のリフレクションから得られた学び(1) 学生の変化を捉える視点の変化、第 25 回、日本看護学教育学会学術集会、2016.8、アスティとくしま(徳島県・徳島市)

大原恵美、安部安恵(略 5 名) 8 番目徳

本弘子、新人看護教員の実習指導事例のリフレクションから得られた学び(2) 教育実践のとらえ方の変化、第 25 回、日本看護学教育学会学術集会、2016.8、アスティとくしま(徳島県・徳島市)

平塚厚子、浅野みち代、朝倉由美、石橋佳子、梅崎正江、鎌田廣子、徳本弘子、第 25 回、実習指導困難場面对話的リフレクションを活用した実習指導方法の検討、日本看護学教育学会学術集会、2016.8、アスティとくしま(徳島県・徳島市)

徳本弘子、新井麻紀子、平塚厚子、朝倉由美、新人看護教員の困難場面での思考と手段教育実践能力を鍛える公開講座の事例から、第 24 回日本看護学教育学会学術集会、2014.8、幕張メッセ(千葉県・千葉市)

徳本弘子、新人教員の実践的思考と手段に関する実践的研究-新人教員の実習指導場面の分析を通して-、第 24 回日本看護学教育学会学術集会、2014.8、幕張メッセ(千葉県・千葉市)

徳本弘子、新人看護教員の臨地実習指導の特徴-指導の困難性の解明-、2014.12、日本看護科学学会、東京フォーラム(東京都・中央区)

[図書](計 件)

[産業財産権]

出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

[その他]  
ホームページ等

#### 6. 研究組織

(1) 研究代表者

徳本弘子 (TOKUMOTO, Hiroko)

埼玉県立大学・保健医療福祉学部看護学  
科・教授  
研究者番号：00315699

(2)研究分担者

後藤桂子 (GOTO, Katura )  
埼玉県立大学・保健医療福祉学部看護学  
科・准教授  
研究者番号：60524147

新井麻紀子 (ARAI, Makiko )  
埼玉県立大学・保健医療福祉学部看護学  
科・助教  
研究者番号：10644552

(3)連携研究者

( )  
研究者番号：

(4)研究協力者

( )